

判例第62/2023/AL号¹

父親認定に関する紛争の事件での未成年の子供への養育義務履行開始時点について
2023年02月01日、02日、03日に最高人民裁判所裁判官評議会により可決され、2023年02月24日付最高人民裁判所長官の決定第39/QĐ-CA号に従い公表された。

判例の源

原告レ・ティ・Dと被告チン・ビン・Cの間の「父親認定、子供への養育」婚姻家族事件に関する2018年3月22日付けビン・フオック省人民裁判所の控訴審判決第07/2018/HN-PT号。

判例の内容の位置：

「裁判所の認定」第4段落

判例の内容の概要：

- 判例の事実：

子供が生まれた後、母親は、被告が当該子供の実父であると認定したうえで、未成年の子供に対する養育義務の履行を請求すると裁判所に訴えを提起した。裁判所は、被告が当該子供の実父であり、養育義務を有すると認定した。

- 法的解決策：

この場合、裁判所は、未成年の子供への養育期間は、その子供が生まれたときから計算すると認定しなければならない。

判例に関連する法令の規定：

2014年婚姻家族法第3条24項、第107条、第110条。

判例のキーワード：

「父親の認定」、「未成年の子供への養育」、「養育義務履行の開始時点」。

事件の内容

* 原告レ・ティ・Dは、以下の通り述べた：

2013年からレ・ティ・Dとチン・ビン・Cは、自主的に同居して、風習・慣習に従って、結婚式を行ったが、婚姻を登録しなかった。同居しなくなったため、裁判所に解決を求めた。ビン・フオック省ロック・ニン県人民裁判所は、2017年3月31日付け判決第13/2017/HNGD-ST号で、レ・ティ・Dとチン・ビン・Cの夫婦関係を認めないという宣言をした。

同居期間において、DとCは、一人の共通の子レ・ザー・Pがおり、2014年01月12日に生まれた。レ・ザー・Pが、生まれたからDによって養育されている。

Dは、チン・ビン・Cがレ・ザー・PがDとチン・ビン・Cの子供であると認め、2014年01月12日からレ・ザー・Pが成長するまで、チン・ビン・Cに月額2,000,000VNDの養育費を支

¹ (原文注) この判例は、ホーチミン市法科大学の教授・博士ド・バン・ダイにより、提案された。

払うことを強制する請求につき裁判所に訴えを提起した。第一審の公判で、Dは、2014年1月12日からレ・ザー・Pが18歳になるまで、チン・ビン・Cに毎月1,500,000VNDの養育費を支払うことを強制するというように請求の一部を変更した。

* 被告チン・ビン・Cは、以下の通り述べた：

チン・ビン・Cは、レ・ティ・Dが述べた通り、同居期間及び裁判所が両当事者の夫婦関係を公認しなかったことを認めた。また、レ・ザー・Pが自分とレ・ティ・Dの実子であり、夫婦当然に同居した期間に生まれたと認めた。Cは夫婦当然に同居した期間、深刻な家族の対立により離婚²となったときを確定し、レ・ティ・Dは、チン・ビン・Cがレ・ザー・Pを子供として受け入れることを許さなかった。出生届にはPの姓が母親の姓であると書いてある。

子供への養育に関するレ・ティ・Dの要求に対して、

上記の養育費が高すぎて、自分の収入を上回っていると判断したため、2017年11月1日からレ・ザー・Pが成人するまで、月額1,300,000VNDのみを支払うことに同意すると主張した。

2017年11月22日付けの婚姻第一審判決、番号48/2017/HN-STで、ロック・ニン県人民裁判所は、以下の通り決定した。

レ・ティ・Dとチン・ビン・Cの間の一致するところを公認する。2014年1月12日に生まれたレ・ザー・Pは、レ・ティ・D及びチン・ビン・Cの実子であると確定する。

レ・ザー・Pについては、成人するまで、レ・ティ・Dに養育を任せる。

養育費、養育義務の履行開始時点：チン・ビン・Cに、レ・ザー・Pの養育費として、成人となる18歳まで、毎月1,500,000VNDを支払うことを命ずる。養育期間は、2017年10月12日から当該子供が18歳になるまで計算する。

さらに、判決書は、訴訟費用、当事者の判決執行義務及び控訴権に関しても宣言した。

2017年11月27日に、原告レ・ティ・Dは、次の内容がある控訴状を提出した。ビン・フオック省人民裁判所に、ビン・フオック省ロック・ニン県人民裁判所の2017年11月22日付け第一審判決書第48/2017/HN-ST号の一部を修正するために、控訴審を行うよう提案するものである。

チン・ビン・Cに、レ・ザー・Pが生まれた2014年1月12日から2017年10月12日までの45ヶ月は、 $45 \text{月} \times 1,500,000 \text{VND/月} = 67,500,000 \text{VND}$ の養育費を支払うよう強制する。

2017年11月30日に、被告チン・ビン・Cは、第一審裁判所が宣した養育費1,500,000VND/月に同意しない控訴状を提出した。彼は、ビン・フオック省人民裁判所に、養育費を1,000,000VND/月に引き下げるよう要請した。さらに、Dの養育なしに、Pを直接に育てさせるよう要請した。

控訴審の公判に参加した検察院代表者は、裁判合議体に、2015年民事訴訟法第308条1項に基づき、C及びDの控訴を承認せず、ロック・ニン県人民裁判所の2017年11月22日付け第一

² (仮和訳者注) ベトナム語の離婚ly hônとは事実婚を解消する場合にも使う。

審判決書第48/2017/HN-ST号の決定を維持するよう要請した。

事件書類にある資料を検討した後、公判での審査、争訟の結果、検察院及び当事者の意見に基づき、

裁判所の認定

[1] Dの養育なしに、レ・ザー・Pを直接に育てさせることを求めるCの控訴状について、次の通り認定する。Pが、生まれた日以来、D一人で世話をされ、育てられ、身体的かつ精神的に正常に成長しているため、第一審裁判所がPをDの世話を任せたのは適切である。したがって、この部分に関するCの控訴を受け入れる根拠はない。

[2] ビン・フオック省人民裁判所に、養育費を1,000,000VND/月に引き下げるよう要請するCの控訴状について、ロック・ニン県人民裁判所の確認書(BL33)に基づき、Pと同じ年齢の子供の世話、養育にかかる平均費用は3,000,000 VND/月である。したがって、第一審裁判所が、CにPを養育するために、1,500,000VND/月(3,000,000VND:2人=1,500,000VND/人)を支払う義務を負うよう強制するのは、適切である。なぜなら、Cは安定した収入のある教師であるため、月給は4,666,220 VND(BL18)であるため、Cの養育費の引き下げの控訴を受け入れる根拠がない。

[3] レ・ティ・Dが、2014年01月12日(Pが生まれた日)から2017年10月12日(訴状の提出日)までの45ヶ月、一人で当該子供レ・ザー・Pを養育している費用(45 x 1,500,000VND/月=67,500,000VND)を支払うよう チン・ビン・Cに強制するDの控訴について、次の通り認定する。控訴審の公判にて、CはPが自分の実子であると認め、生まれた以来Dによって養育されているのは、CがPの適法の父親か否か確認を受けられないからである。しかし、Dが出産したとき、Cは、出産準備としてDに5,000,000VNDを渡した。その後、Cは、Dに年平均5か月、月額1,000,000VNDの養育費を支払った。そしてDは、CがDに出産準備のために5,000,000VNDを渡し、その後、また3回、1回ずつ1,000,000VNDを渡したということだけを認めた。

[4] 2014年婚姻家族法第82条、83条、第3条24項、第107条、第110条及び2005年民法第281条に基づき、未成年の子供に対する両親の養育義務は、当該子供が生まれた時から発生されるものとする。子供への養育は、直接子供を養育していない母親、父親の権利であり義務である。レ・ザー・Pは、レ・ティ・Dとチン・ビン・Cの共通の子であるが、生まれた2014年1月12日から2017年10月12日(養育を要請する訴状の提出日)まで、Dは、一人で、世話をし、育て、養育費を支払った。したがって、2014年01月12日(Pが生まれた日)から2017年10月12日(訴状の提出日)までDが支払ったPへの養育費を支払うようチン・ビン・Cに命じる要請を公認しなかったのは、不適切であり、Dの適法な権利・利益に影響を及ぼした。そのため、Dの控訴の一部を受け入れる必要がある。具体的に、2014年01月12日から2017年10月12日まで、当該子供のために支払った養育費2,000,000VND/月の2分の1を次の通りDに返還するよう命じる。45 x 1,000,000VND/月=45,000,000VND。

[5] Cは、次の通り陳述した。Dが子供を育てるために、平均して年間5か月、1ヶ月あたり1,000,000VNDの養育費を支払った。しかし、Cはそれを証明する書類や証拠を持っておらず、Dは、Cが養育費として毎回1,000,000VNDを3回受け取ったことを認めただけであ

るため、Cが3ヶ月、1ヶ月あたり1,000,000VND、統計3,000,000VNDをDに養育費を渡したことになる。その金額は、CがDに返還しなければならない養育費45,000,000VNDから控除される(45,000,000VND-3,000,000VND)=42,000,000VND。

[6] CがDに渡した5,000,000VNDに関しては、出産費用であるから、養育費から控除されない。

[7] Cの養育費の減額を求める控訴を受け入れないよう提案するビン・フオック省人民検察院代表者の意見は根拠ある。

[8] 2014年01月12日から2017年10月12日までCに対して子を養育するよう要求するDの控訴を受け入れないよう提議するビン・フオック省人民検察院代表者の意見は、根拠がない。

[9] 控訴・異議申し立てがない第一審判決の他の決定は、控訴・異議申し立ての期限終了日から効力を発生するものとする。

[10] 控訴審の訴訟費用：チン・ビン・Cは、法律の規定に基づき、訴訟費用を負担しなければならない。

上述を踏まえて、

決定

2015年民事訴訟法第308条2項、第309条、裁判所訴訟費用、手数料に関する国会常務委員会の決議、番号326/2016/UBTVQH14に基づき、

チン・ビン・Cの控訴を認容しない。

レ・ティ・Dの控訴を一部認容する。

ロック・ニン県人民裁判所の2017年11月22日付け婚姻家族第一審判決、番号48/2017/HNGĐ-STを修正する。

2014年婚姻家族法第3条、第14条、第68条、第69条、第71条、第82条、第83条、第107条、第110条、第116条、第117条、第119条、2005年民法第281条を適用する。

[1] レ・ティ・Dとチン・ビン・Cの間的一致するところを公認する。2014年01月12日生まれたレ・ザー・Pは、レ・ティ・Dとチン・ビン・Cの実子であると認める。レ・ザー・Pが18歳になり、労働力を得るまで、Pの世話、養育をする権利をレ・ティ・Dに与える。

[2] 2014年01月12日から2017年10月12日までの共通の子供への養育費用として、レ・ティ・Dに42,000,000VNDを返還するよう命ずる。

[3] 共通の子供レ・ザー・Pの養育費として、レ・ザー・Pが18歳で労働力を得るまで、毎月1,500,000VNDをレ・ティ・Dに支払うようチン・ビン・Cに強制する。この養育が、2017年10月12日(訴状の提出日)から計算される。

[4] 婚姻第一審の訴訟費用：チン・ビン・Cが300,000VNDを負担しなければならない。レ・ティ・Dが負担することはない。ビン・フオック省ロック・ニン県民事判決執行支局は、2017年10月12日付けの徴収領収書第0014898号に従って、Dに300,000VNDの訴訟費用の前払い金を返金する。

[5] 婚姻控訴新の訴訟費用： チン・ビン・Cが300,000VNDを負担しなければならない。ビン・フオック省ロック・ニン県民事判決執行支局の2014年11月30日付け徴収領収書第0005554号に従って納めた訴訟費用の前払い金に控除される。

[6] 判決の効力発生日から、あらゆる金銭が完全に実施されるまで、判決の債権者が、判決執行を要求する申請書を提出できる。毎月、判決の債務者が、民法468条2項に定めている利率で、判決債務の残額にも利息を負担しなければならない。

民事判決執行法第2条に基づき、執行される場合、民事判決執行法第6条、第7条及び第9条に基づき、民事判決債権者と民事判決債務者が執行合意権利、執行要求権利を有し、判決を自主的に執行し、又は強制執行される。判決執行の時効は、民事判決執行法第30条に従う。

[7] 控訴、異議申し立てがない第一審判決の他の決定は、控訴、異議申し立ての期限切れた日から効力を発生するものとする。

判例の内容

“[4] 2014年婚姻家族法第82条、83条、第3条24項、第107条、第110条及び2005年民法第281条に基づき、未成年の子供に対する両親の養育義務は、当該子供が生まれた時から発生されるものとする。子供への養育は、直接子供を養育していない母親、父親の権利であり義務である。レ・ザー・Pは、レ・ティ・Dと チン・ビン・Cの共通の子であるが、生まれた2014年1月12日から2017年10月12日（養育を要請する訴状の提出日）まで、Dは、一人で、世話をし、育て、養育費を支払った。したがって、2014年01月12日（Pが生まれた日）から2017年10月12日（訴状の提出日）までDが支払ったPへの養育費を支払うようチン・ビン・Cに命じる要請を公認しなかったのは、不適切であり、Dの適法な権利・利益に影響を及ぼした。そのため、Dの控訴の一部を受け入れる必要がある。具体的に、2014年01月12日から2017年10月12日まで、当該子供のために支払った養育費2,000,000VND/月の2分の1を次の通りDに返還するよう命じる。45 x 1,000,000VND/月 = 45,000,000VND。”